

第1原発

1万5000倍超すヨウ素

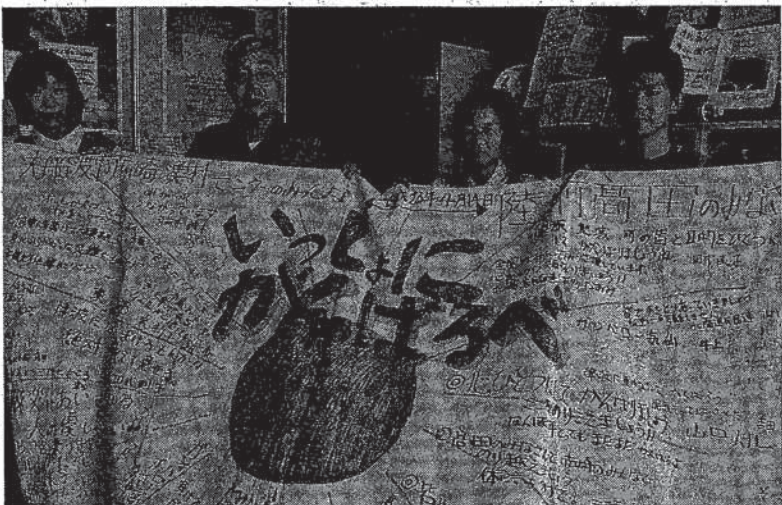
# 「一緒に頑張るべ」

# 避難所結ぶ寄せ書き

## 民医連チームが懸け橋

「いっしょにがんばるべ」。岩手県大船渡市の避難所に仮設診療所を置く全日本民医連の医療支援チームが、シートで被災者の寄せ書きをつくり14日、隣接する陸前高田市の避難所に届けました。

岩手 大船渡↓陸前高田



寄せ書きを広げる石山さん(左端)ら医療支援チームと、大坪市議(右から2人目) 岩手県陸前高田市

(内藤真日子)

同診療所は全日本民医連が3月下旬、同市の要請を受け赤崎地区公民館漁村センターに開設。小規模な避難所への往診や、地域の全戸訪問による健康チェックも行っています。寄せ書きを提案したのは函館市の稜北病院訪問看護ステーションの石山正子所長(55)。17年前、北海道南西沖地震の津波で奥尻島の両親を亡くしました。「被災した方々を抱きしめ共感することで乗り越える力を引き出せば」とやってみました。被災者の血圧を測りながら「肩こってないかい」と声をかけマッサージュ。涙ながらに被災体験を語る人もいました。

石山さんらが「被災者同士の連帯のお手伝いができないか」と寄せ書きを作ると、避難所の50人が応じました。「何事にも負けずがんばろう」と書いた男性(76)は、自宅と陸前高田市の妻の実家が全壊。「気持ちを強く持って難題を乗り越えたい」の気持ちを込めました。医療支援チームには「弱い人への目配りなどケアがすごい。感謝の一言」と語ります。

陸前高田市では米崎小学校の避難所自治会の大坪涼子さん(日本共産党市議)が寄せ書きを受け取りました。「知り合いの名前もある」とホッとした表情を見せた大坪さん。「ありがたいです。みんなも喜ぶと思う。紹介して避難所に飾りたい」と話していました。

が停止した際に1〜3号機にあった放射エネルギーについて、放射性ヨウ素で計610万ベクレル(テラは1兆)だった

### 「地域のために」震災4日後 店を再開

ると、放射約50分の1シウムで約1が外部に

資生堂  
大手化粧  
資生堂鎌倉  
川貝鎌倉市  
偽装請負  
状態で働  
性労働者7  
解雇・雇